

冬の星空

【児童センター冬の星空12月号】

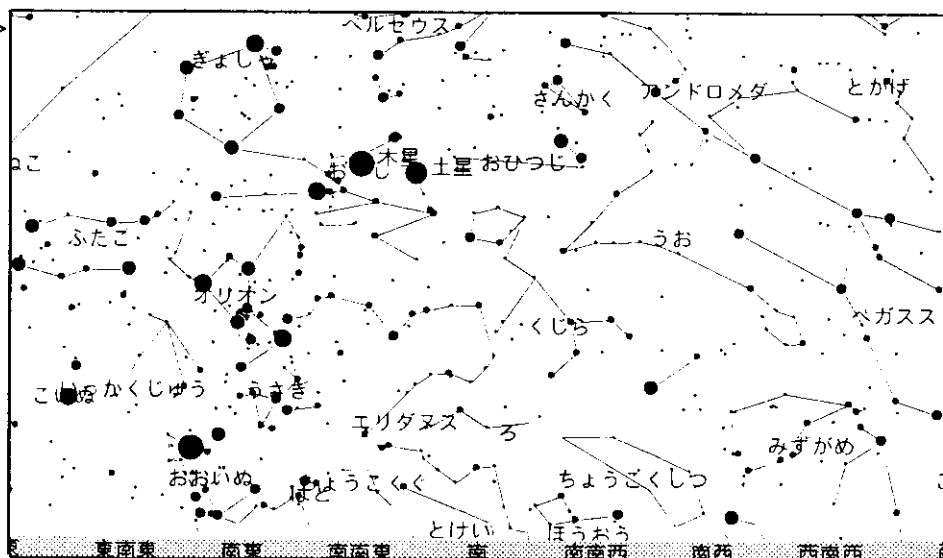
冬の星座として、有名な“オリオン座”が12月になると南の空に登ってきます。ギリシャ神話によると、オリオンは海の神ポセイドンの息子です。オリオンは狩人をしていましたが、狩の腕はすばらしく、力も強いのでどんな獲物も決して逃がすことはありませんでした。ギリシャ神話を思い出しながら、コン棒を振りかざしたオリオンの勇ましい姿を実際の夜空でお楽しみ下さい。

オリオン座の西側には、“おうし座”があります。おうし座の中には、とても明るく輝く木星、すぐ近く（右上）に土星があります。

<12月の星空カレンダー>

- 4日(月) ①上弦
- 11日(月) ②満月
- 18日(月) ③下弦
- 26日(火) ④新月

右の星図は、12月中旬
旬夜9時ごろ、南の方向
を中心に見た星空です。



☆☆☆☆☆☆

《天文現象》

☆金星の輝きがきれい！

夕方の西空に輝きを増した、金星（宵の明星）が夕焼けの中にきらめきます。宵の明星としておなじみの金星は、来月までとても見やすい時期を向かえます。特に12月末には細い月が金星の近くにならびますのですばらしい光景として見るができます。12月30日の夕方双眼鏡を使って、金星の近くにある月をみると三日月部分の他にうすボンヤリした月（地球照）を見ることができます。

☆ふたご座の流れ星

ふたご座流星群といって13～14日頃流れ星が出ます。しかし今年は満月後の月光にじゃまされてとても見にくい状況になります。

